

令和6年度第3回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和6年8月22日（木）午前9時30分～午前10時40分

ところ：市役所5階 504会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）

傍聴者 なし

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について（報告）
- (2) 第55回関東甲信越静社会教育研究大会 茨城大会（令和6年度茨城県社会教育委員協議会研修会）について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和6年青少年健全育成講演会について
- (2) 令和6年度姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業について（報告）
- (3) 令和6年度非核平和学習事業について（報告）

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（8月）について

【図書館】

- (1) 図書館主催イベント（8～10月）について
- (2) 図書館主催イベント（7～8月）について（報告）

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 議案（1）について、町田市教育委員会事務局より、今年度から社会教育委員を生涯学習審議会委員に名称変更したとの説明があった。生涯学習審議会委員と名称変更することは、個人の自発的意思に基づく生涯教育、自己の充実、啓発に重きを置いていると感じた。今後の社会教育について、自律的学びが重点的になってくると思った。

○委員 議題（2）について、小平市として、どの分科会に参加するかについては、今後、話し合いで決めるとのことであるが、事前配付の資料を読むと、仕組みづくりに関する内容が役立つ

と感じた。例えば、第3分科会では、水戸市の、高校生や若者が積極的にボランティア活動に参加し、社会人としての基礎力を養う環境を整えているという事例が紹介されている。この分科会では、取り組んでいる活動の一部を紹介するとのことであるが、高校生や若者が積極的にボランティア活動に参加できる仕組みづくりに視点を置いて、この分科会に参加すると、小平市でも同じような仕組みづくりをして、若者や高校生にも参加してもらえるようなことができるのではないかと感じた。

○事務局 事務局も、その視点を持って大会へ参加する。

○委員 青少年健全育成講演会について質問がある。以前勤務していた施設では、3月末に、高校を卒業するこどもたちの旅立ちの会があり、職員が歌う歌として、今回の講演会の講師が作曲した「旅立ちの日に」を選ぶことが多かった。練習する時間がいつもない中で、歌いやすく、思い出がたくさんある歌である。今回の講演会では、参加者全員で歌うことを考えているのか。

次に、非核平和学習事業について質問がある。以前勤務していた施設では、施設に用務員として勤務されていた80歳代の方が、小平第二小学校の出身であり、戦時中の小平の様子を、施設のこどもたちで聞こうという企画を行った。用務員の方からは、小平第二小学校の校庭に穴を掘って、みんなで武器を埋めた、というような貴重なお話もお聞きできた。非核平和学習とは違ってもいいかもしれないが、戦時中の小平のことなど、地域の方から聞いてみると、こどもたちは、身近に地域のことを感じられるのではないかと思った。

○事務局 まず、今回の講演会についての質問の回答であるが、講演会の中で、「旅立ちの日に」を歌うことを考えている。

次に、非核平和学習事業への意見について、非核平和学習に限った話になるが、今回、被ばく体験者の講演記録の上映の冒頭の、事務局として挨拶の中で、体験者の高齢化が進む中、体験の継承が今後の課題であると触れている。体験の継承について、意見も踏まえ、検討を進めていく。

○委員 ボランティア活動に若者が参加する仕組みづくりについて、私も常にそのことを考えている。例えば、今回報告があった中央公民館の友・遊も、参加者については、小学生を対象としているが、小・中・高校生が講師となるようなプログラムを取り入れるとか、運営にこどもたちが主体的に関われるような仕組みなどができたらいいのではないかと思う。思い付きではあるが、例えば一日中央公民館長を募集してみるなど。また、図書館の行事にしても、こどもを対象としているだけではなく、主体者になって関わるような試みができたらいいと思う。

○事務局 公民館の活動に関しては、まず公民館に来ていただきたいというのが一番大きな目的であるが、委員からの指摘のとおり、こどもが主体となる取組も少しずつ取り入れていきたいと考えている。例えば、友・遊の取組として、白梅縁日を実施した。これは白梅大学の学生さんが主体となって、こどもたちに縁日を提供する取組である。また、小平第六小学校の吹奏楽部が演奏で参加するような形で、こどもたちも活躍できるようなプログラムを少しずつ用意している。今後も、例えば高校生が活躍するような場面なども増やしていきたいと思う。

○委員 高校生のボランティアについて話をしたい。小平第七小学校の青少対の活動で、地域

の清掃をしている。昨年度、久しぶりに地域の清掃活動を復活した。活動には、大学生と、その大学生の友人が参加していた。参加した理由を聞くと、小学校のときに参加して、すごく楽しかったことから、今回、青少対の活動を地域の掲示板で見て知って、来たということであった。とてもうれしかった。続いている行事ではないので、たまたま参加してくれたことではあるが、それでも参加してくれたことに対して、本当にうれしいなと感じた。

次に質問として、夏休みの期間中の活動の安全配慮について伺いたい。夏休み期間は、こどもたちに向けて多くのイベントをやる本当にいい機会であると思う。公民館、図書館、地域学習支援課で実施している事業については、本当に感謝している。ただ、昨今の、異常な暑さにより、毎日のように不要不急の外出は避けてくださいというようなニュースなどがある中、事業を実施するかどうかの判断について、どのような基準を設けているのか、あるいは、これから設けようとしているのか質問したい。昨今の暑さを考えると、活動実施の可否についての基準を考える時期ではないか。

○事務局 地域学習支援課としての取組として、まず説明する。夏休み期間中の遊び場開放については、午後の実施という形で行っているが、昨年度までの熱中症警戒情報等を見ると、午後に危険な状態に達することが多いことから、今年度、試行的に、小平第十一小学校、小平第十四小学校、小平第十五小学校の3校で午前中の試行実施という形で行っている。ただ、今年の気候の特性なのか、午前中でもかなり熱中症の危険の度合いが高くなることもあり、午前中についても中止になった日が、現時点だとかなり多い日数があった。これから検証を行い、事業としての検討を進めていく。

また、青少年リーダー養成講座では、夏休み期間に行う行事がある。暑さに対しての明確な基準はないが、環境省の熱中症予防情報サイトなどから、危険に達するということが確認できたら、それは中止という判断を個別にしなければいけないと思っている。

この青少年リーダー養成講座は、青少年委員が指導者として関わっていただいている講座である。そのため、青少年委員の意見等も参考にして進めていかなければならないと考えている。事業の見直しについては、例えば、屋外で実施している講座、イベントを屋内に切り替えるなどの検討を来年度に向けて行わなければいけないかなとは思っている。また、他市で実施している同様の講座の実施状況も踏まえて、来年度に向けて検討していく。

○事務局 公民館については、基本的には室内の活動であるが、企画する講座を屋外で実施するものもある。近年、キャンプというような屋外で実施する企画を立てることがある。キャンプについては夏というイメージがあり、夏場に組みたいのであるが、それをあえて冬場にもっていくなどの工夫をしている。

また、知的障がい者の皆さんの体験機会を設ける目的で実施している、けやき青年教室に関しては、毎年9月にキャンプファイヤーを行っていたが、こちらも冬に移すというような形で時期をずらした。

また、暑さ以外でも、ゲリラ豪雨の問題もある。雨対策として、雨プログラムなども準備するように注意している。

○事務局 図書館も、公民館と同様、基本的に屋内の事業である。事業そのものについて、暑さの対策は、特には取っていない。ただ、居場所として、空調の効いた館内で過ごしていただきやすいようにしている。少しずつではあるが、閲覧席を少しずつ増やすことなどに、取り組んでいる。

○委員 友・遊について感想を述べたい。以前、事務局側で対応させていただいたことがあった。テレビ局の方が来てアナウンサー体験を行ったりとか、昆虫の折り紙だったりとか、今回、いろんなレパトリーがあってすごいなと思った。終わった後の支援をしていたが、こどもたちの達成感がすごかった。やり切ったとか、喜びの顔とか。そういったこどもたちの達成感の繰り返しによりこどもたちの成長を押しているんじゃないかなと感じた。図書館についても、こどもたちのプログラムに関してすばらしいなと思った。

○委員 姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業について意見がある。以前、日野市に住んでいた。そのときに、北海道の美瑛町と交流があり、私もお子さんを自宅で受け入れたことがあった。今回の報告で、活動内容は分かったが、例えば、初対面のときドキドキしたけれども、別れ際には、こどもたちが友達同士になって、涙ながらに別れたなど、もし、参加者のアンケートなどがあれば、得たこと、学んだことについての、参加者の感想を聞きたい。

次に図書館のボランティアについての意見がある。資料では応募者が23名、参加者が8名との記載であった。せっかくボランティアに名乗り出てくださいました方たちがたくさんいらっしゃるのもったいないなと思った。例えば複数日に変更していただくとか、他の図書館でもやっていただくとか、そういう配慮がいただけるといいかなと思った。

○事務局 姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業の参加者へのアンケートについては、今月28日、事後研修を行い、そのときにアンケートを実施する予定である。なお、前回の訪問時のアンケートでは、交流や体験を通じていろいろな人と仲よくなった、一人で行動することに自信がついたなど、好意的な意見が多く寄せられている。

また、アンケートではないが、事業終了後もメール等で交流が続いているということも聞いている。今回の訪問では、最後に行われたお別れの会でも、お互いに帽子にサインをし、その後、バスが出発した後、送る方も、送られる方も、お互い、姿が見えなくなるまで見送りをしていた。今年も一定のつながりが作れたと感じている。

○事務局 図書館のボランティア体験について。昨日は図書館に8名の中高生が来て、いろいろなことを体験した。今回の開催では、応募が23名であり、反響がかなりあったと捉えている。昨日は8名を2班に分け、館内のいろいろな業務を職員がサポートし、体験をした。今回、応募人数がかなりあったことから、今後、このような事業を行うときは、日にちを複数日で設定するとか複数館で実施するなど、検討していきたい。

○委員 質問と感想がある。まず感想について。先日、非核平和学習の報告会に参加した。参加者全員が口をそろえて、周りの人にこれを伝えていきたいという感想を述べていた。平和記念資料館を見学し、式典に参加したことで、自分たちの使命であると、参加者それぞれが感じたことを、その報告を聞いて思った。参加者の一人の中学生在が「愛することは考えること」と言った

こと、中学生でそのような言葉が出るのだなと、とても印象に残った。

今回は、講師の体調不良により、残念ながら上映会になってしまった。しかし、講演記録の上映でも田中さんの訴えたいことが伝わることは分かった。

次に、姉妹都市小平町の少年少女交歓交流事業についての質問。小学5・6年生が参加したとのことであるが、参加費について、可能ならば教えていただきたい。

次に、中央図書館での竹久夢二展を見て思ったことがある。竹久夢二が大好きなので、早速見に行った。小平市にこんなすてきなお宝があるのだと、とても感動した。場所が2階であつたので、2階に行かないと見れなかった。例えば、1階で行うと、多くの方に見ていただけるのではないかと思う。展示する場所は、2階に限られてしまうのか。

次に、ぬいぐるみが選んだ本を貸し出すというところがすごく興味がある。ぬいぐるみがどんな本を貸し出すのか、教えていただきたいと思う。

○事務局 図書館の展示場所について。中央図書館は、市内の図書館の中では、比較的広い図書館であり、展示スペースが何か所かある。1か所目として、入り口の風除室のところの壁際に、ガラスの中に展示できるスペースがある。ただしこのスペースは、展示できる面積が、限られている。今回の竹久夢二の展示では、規模が小さいと考えた。次に、カウンターの側に椅子や机を置いているスペースがあるが、現在、津田梅子の展示をしており、使えない状況になっている。

2階の展示は、かなり場所も広くゆったり取れるということ、また、長期間の展示も可能であることから、今回は、展示を2階で行っている。1階でも、2階の展示について、案内はしているので、来館者への周知は図っている。

次に、ぬいぐるみがどんな本を選ぶかということについては、ぬいぐるみを持ってくる方には秘密にしているが、お子さんがどんなぬいぐるみを持ってくるかによって、図書館員が、そのぬいぐるみに合った本を選んであげればいいかなと思っている。

○事務局 非核平和学習について。講演記録の上映に参加していただいたことに感謝する。今回は、講演記録の上映ということで、体験者が生の声で語ることとは異なってしまったが、体験者の言葉で語られることの重さが、記録の上映でも伝わる内容だったと思う。

また、参加した児童には、事前にどういったことを学びたいかということを事前研修で確認し、広島へ行き、広島で得た経験を事後研修という形で振り返ることを行つたが、事前研修のときは、広島に行きたいという、旅行気分の参加者が多かったが、実際に平和記念資料館に行き、式典に参加し、講演記録の上映を見ることによって、今、委員の発言にもあつた、伝えたいという気持ち強く表れていたことを、発表を見て感じた。

また、高齢化により、体験をどのような形で伝えていくかについては、今後、この事業を続けていくにあたり、地域学習支援課としても考えていかなければいけないと思っている。

姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業の参加費用については、令和6年度は、一人6万5,000円である。前回、令和4年度、訪問した際は、6万円であつたが、航空運賃の高騰を考慮して、今年度はこの参加費となっている。参加費用の支出内訳は、航空運賃、航空使用料、旅行保険、食事代などである。

○委員 青少年健全育成講演会と、議題にはないが、ティーンズ委員会について、感想を述べたい。

まず、青少年健全育成講演会について。以前、この会議で、開催時間について放課後子ども教室のコーディネーターの皆さんが活動されている時間と重なることから、時間を変更した方がよいという意見があったように思うが、変更は難しいのか。

また、前回も意見を述べたが、この講演会は、学校経営協議会の委員の研修としての位置づけがないのか。地域学校協働活動と学校運営協議会については、教育委員会の中で、地域学習支援課と指導課に分かれていると思うが、学校で活動する者から見ると、同じ学校の中で地域の人に関わって活動している組織をして、同じであると思う。私は、学校経営協議会の委員をしているが、学校経営協議会の委員の方にも、学びの場、研修として位置づけて聞いていただきたいと思う。令和5年度の講演会が、ヤングケアラーに関する内容であり、この内容について、学校経営協議会への周知がないことについて疑問に思った。ぜひ縦割りではない、垣根を越えて連携ということを進めていただきたいと強く思う。

ティーンズ委員会について、8月5日号の市報の第1面を見て、思わず本当に、ああ、やったと思った。このような、こどもたちの活動が市報の第1面に出るということに、拍手したい気持ちになった。地域ぐるみで、社会総がかりで、こどもを育てようという声は、教育委員会に関わっている者は、耳にする言葉ではある。しかし、市民活動支援センターなどに関わっていると、一般の方へは、意識していないことを感じていた。広く知っていただくということは、とても大事なことと思う。こどもたちが今どういう取組をしている、学校で地域の人がどういう活動をしているということを、やはり多くの方に知っていただきたいなと思っている。これからも、このように知っていただく機会というのを設けていただきたいなと強く思う。

○事務局 青少年健全育成講演会の開催時間について。貴重な意見として受け止めさせていただく。参加する対象者の設定、講演会を実施することの効果を考え、開催時間を設定することは、今後も事業を企画するに当たって、考慮していかなければいけないことだと思う。また、依頼する講師の事情等もある。それらの事情を斟酌し、可能な限り広く参加できるような講演会を考えていく。

また、コミュニティスクールと地域学校協働活動については、本日、前期の調査報告書を配付しているが、両者の活動がどのように関わっていくか前期の社会教育委員の皆さんが研究を進めていただいたことから、その研究成果に基づき、今後どのような形で連携して、より効果的に、講演会などの事業に還元できるかについて考えていきたい。

○事務局 ティーンズ委員会の記事をご覧いただき、感謝している。いろいろな反響等があった。今後、このような事業をやるときに参加をしたいこどもたちが出てくることも期待できる。また、何より参加をしているこどもたちにとっては、励みになったと捉えている。今後も事業の充実に努めていきたいと思う。